

止水板の保管・メンテナンスの補足説明資料

保管・使用後の注意点

MIZUYOJIN

⚠ 注意

- 止水板を保管する際には、止水ゴムが圧縮されたり変形しないように保管してください。止水ゴムが圧縮されてつぶれていたり裂けていると、止水性能が低下し、浸水の被害度が高まるおそれがあります。
- 止水板を壁等に立て掛けて保管する場合、地震等で止水板が倒れて怪我や骨折などの重傷を負う可能性があります。止水板が倒れてこないような対策を施してください。
- 取り外しタイプの支柱やダブルクリップなどの付属品は失くさないよう所定の場所に保管してください。
- 止水板の内部に水が入る構造になっています。ホースを差し込むなどして、使用後は止水板のパネル内部も水でよく洗い流し汚れを取り、乾燥させてください。
- 止水板を使用後は、直射日光や雨をさけて保管してください。常時設置したままにすると、さびやかびなどの経年変化や劣化が早まります。また、止水ゴムの劣化が早まり、止水性能が低下します。

メンテナンスと設計耐用年数

MIZUYOJIN

⚠ 注意

- 年に一度は、設置訓練と点検をしてください。訓練や点検をしていないと、浸水時に適切に設置できずに、止水性能を発揮できない可能性があります。点検の際、不具合があり、対処に困る場合は、「お問い合わせ先」までご連絡ください。

■点検内容

- ✓ 止水板が問題なく設置できるか。
- ✓ 止水板や支柱、部品は変形していないか。また、不足していないか。
- ✓ 止水ゴムは劣化(凹み、剥がれ、千切れ)していないか。劣化している場合は貼り換えてください。推奨は、EPDM発泡ゴム、厚み 5mm (パネル底部は10mm)、幅 30 mmとなります。
- ✓ 支柱は固定されているか。支柱のビスが緩んでいれば、締め直してください。支柱を両面テープで固定している場合で接着力の低下により支柱が動くようなら、両面テープを貼り換えてください。
- ✓ シーリング材は劣化(剥がれ、ひび割れ)していないか。支柱と壁面や床面等の隙間のシーリング材が劣化している場合は、シーリング材を除去し、変性シリコン系のシーリング材を打設してください。お客様の最寄の専門業者にご相談ください。なお、シーリング材は5年から10年程度で劣化します。

■設計耐用年数

止水板、支柱ともに、設計耐用年数は10年です(止水ゴム部は除く)。ただし、設計耐用年数は保証期間ではありません。本製品の保証期間は1年となります。設計耐用年数は、適切な維持・管理をされた場合の数値となります。沿岸部や腐食環境での使用・保管の場合、耐用年数が短くなるおそれがあります。



止水板の保管時は止水ゴムをつぶさないようにしてください

止水ゴムが変形して漏水しやすくなります ゴムが傷んだ場合は交換してください



止水板の保管時に、止水ゴムが変形した例



変形が戻らない止水ゴムを使うと隙間から漏水します

止水板の保管事例 (止水ゴムが接触して変形しないようにして保管します)



台車



ボックス



クッションゴム付きパネルの場合



平積み



壁掛け



スタンド



立てかけ



使用後は止水板を水でよく洗い流して乾燥させてください
汚水による腐食が進行するおそれがあります



内部もよく洗ってください



止水ゴムは劣化した場合は張り替えてください

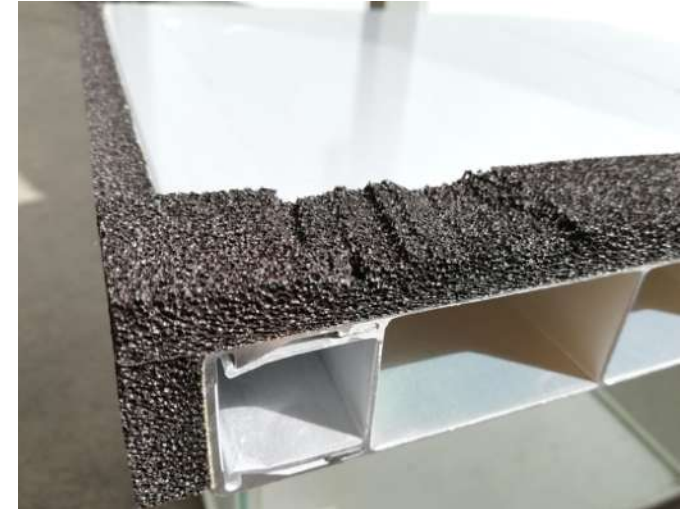
＜止水ゴムの交換が必要な例＞



変形
(元に戻らない場合)



はがれ



ちぎれ

- ・ 止水ゴムは使用状況、保管状況、により経年劣化します
- ・ 止水ゴムの交換目安は5年程度ですが、劣化している場合は交換してください
- ・ 止水ゴムの交換は、市販のEPDM発泡ゴムを用いて交換してください
- ・ 止水ゴムの交換について、不明点などがあれば、ご連絡ください

お問い合わせ先 sales_mizuyojin@ml.uacj.co.jp



止水ゴムの一例
(EPDM発泡ゴム)

< 止水ゴムを一部だけ交換する例 >



①部分的に止水ゴムが痛んでいる例



②痛んでいる部分を除去します



③少し大きめの新しい止水ゴムを用意します



④新しいゴムを貼り付けます



⑤飛び出ている部分をカットします



⑥補修完了

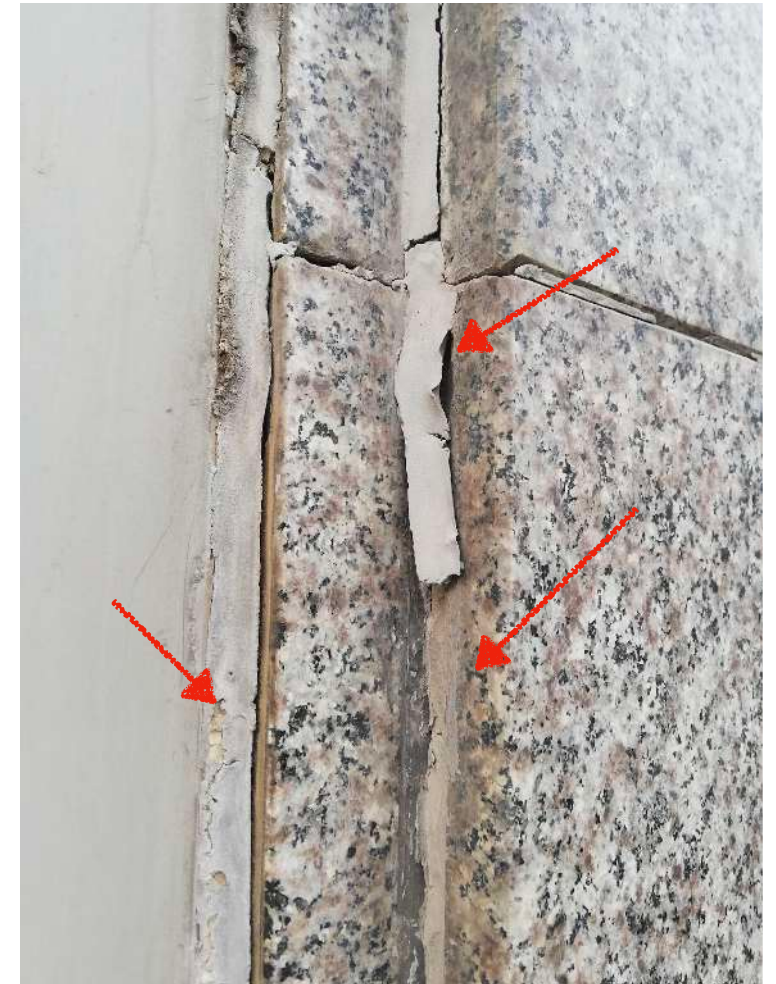


シーリング材は劣化している場合は、打ち直しをしてください

最寄りの専門業者（外壁塗装、防水工事業者）にご相談ください



正常な状態



劣化した状態の例

不明点があればご連絡ください

お問い合わせ先 sales_mizuyojin@ml.uacj.co.jp